

木製遺物の出土とその環境 －岡崎地区の発掘調査から－

伊藤 淳史

（京都大学大学院文学研究科附属文化遺産学・人文知連携センター）

< お話の構成 >

- 1 : はじめに
今回の展示企画の背景
- 2 : 京都大学岡崎国際交流会館建設にともなう発掘調査 (2018年)
 - a 調査地の歴史的環境 (白河街区・六勝寺・岡崎遺跡)
 - b 遺跡の状況 (堆積環境 / 主要な遺構 : とくに特殊な方形土坑について)
 - c 出土遺物 (平安後期 / 弥生後期 ~ 古墳前期)
 - d 木製遺物の保存処理
- 3 : おわりに
発掘調査成果の意義と課題 - 白河街区・岡崎遺跡の復原 / 木製遺物出土環境の再認識

1 はじめにー今回の展示企画の背景



Google Earth Proの画像を使用



★良好に遺存する木製品の出土
👉展示するにも保存処理が必要
💡過程も含めた紹介はできないか？

京都大学が岡崎地区にあらたに国際交流会館を建設

予定期516m²を事前に発掘調査 (2018.7.23-11.09)



京都大学岡崎国際交流会館 (現在)

2 京都大学岡崎国際交流会館建設にともなう発掘調査（2018年）

a 調査地の歴史的環境（白河街区・六勝寺・岡崎遺跡）

白河天皇による法勝寺造営（1075年）にはじまり、その後100年間あまり寺院と殿舎の立ち並ぶ街区の整備。列島の政治中心となった空間



法勝寺と尊勝寺以外の寺院の配置や街区の整備状況は不詳

下層は全域が弥生～古墳時代の岡崎遺跡



b 遺跡の状況 (①堆積)

調査区西半北壁の層位



46.5m

明治以降

江戸時代
(18-19世紀)

室町時代
(14-15世紀)

平安～鎌倉時代
(12-13世紀)

44.5m

弥生後期～古墳前期
(2-3世紀)

江戸時代の大溝

b 遺跡の状況 (②主要な遺構：江戸時代)



2 江戸時代の南北大溝
(北から)



1 調査区の全景
(近世層上半除去後
東から)



3 溝内の木組遺構
(南から)

b 遺跡の状況 (②主要な遺構：平安時代後期)



1 調査区の全景 (古代層掘り上げ後・東から)



2 方形縦板横棧組みの井戸底に据えられた曲物



3 漏斗状の穴の底に据えられた曲物

b 遺跡の状況 (②主要な遺構：平安時代後期)



1 瓦溜の出土状況



2 土器溜の出土状況

b 遺跡の状況 (②主要な遺構：平安時代後期の特殊な方形土坑)



1 遺構全景・東から



2 オルソ画像 (正射投影変換画像) ・上が北

3 オルソ画像から派生させた三次元画像

b 遺跡の状況 (②主要な遺構：平安時代後期の特殊な方形土坑)



1 土坑西側の断面細部(上)
黄色矢印付近に異なる土が落ち込んでいる状況を確認できる



2 西壁中央付近に置かれた石と井桁状角材のようす(右上)
西壁と井桁状角材下部のようす(右下)

b 遺跡の状況 (②主要な遺構：平安時代後期の特殊な方形土坑)



1 西側埋土の掘り上げ後 (東から)



2 全体掘り上げ・井桁状角材の除去後 (西から)

b 遺跡の状況 (②主要な遺構：平安時代後期の特殊な方形土坑・・・変遷と使用状況の想定)

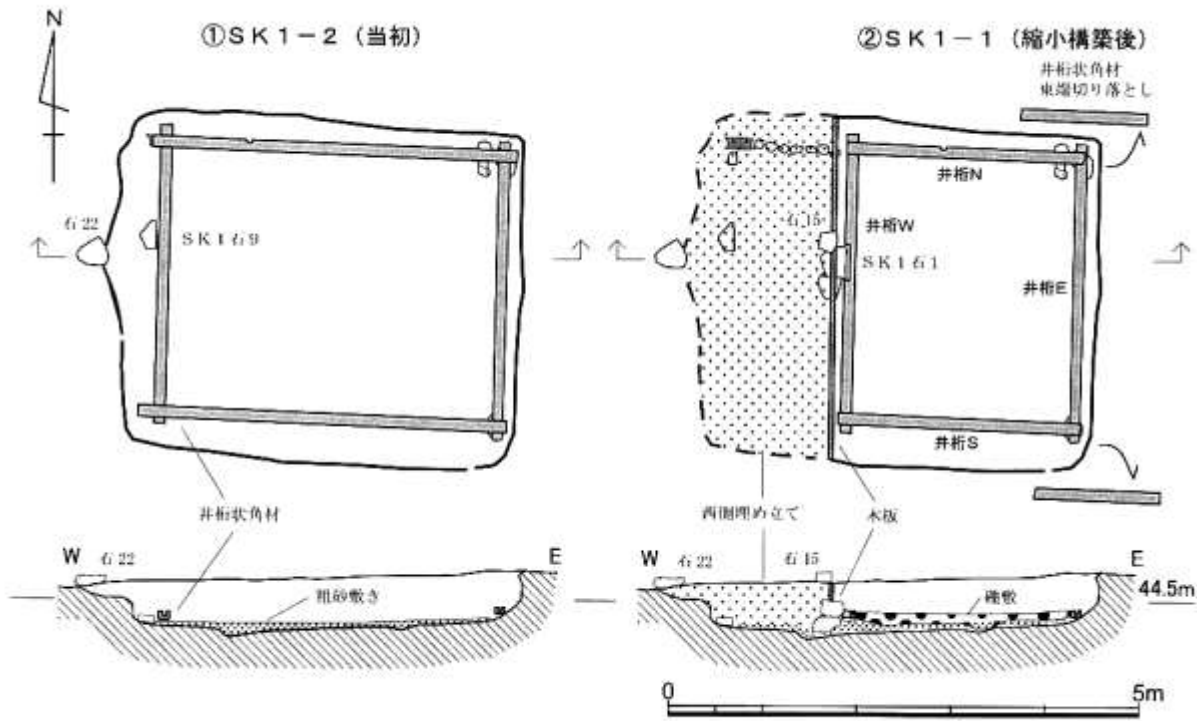


図12 SK1 変遷想定図 縮尺1/100

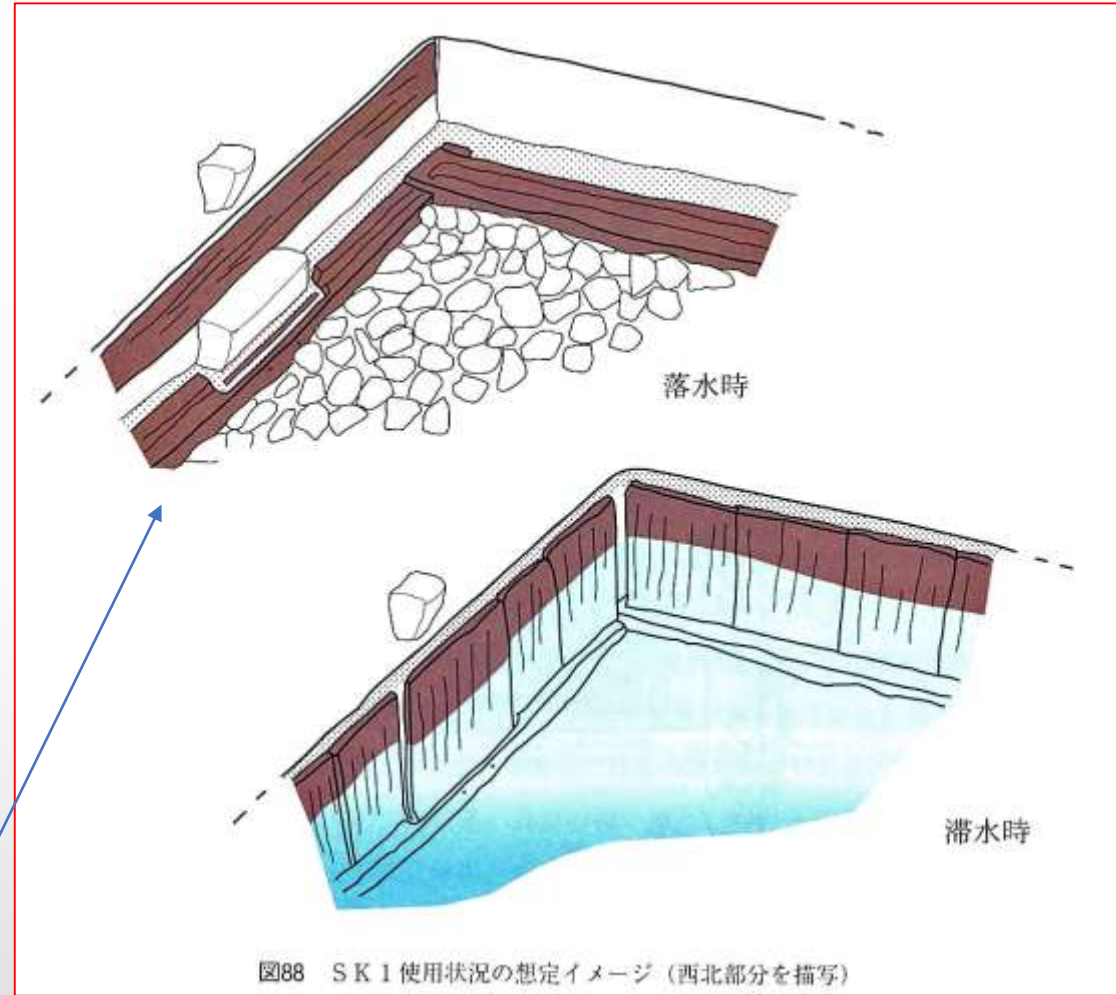


図88 SK1 使用状況の想定イメージ (西北部分を描写)

『京都大学構内遺跡調査研究年報 2019年度』より



井桁状角材細部
 挟り込み部分に施された穿孔 (竹串の刺さっている箇所)

b 遺跡の状況 (②主要な遺構：弥生後期～古墳前期の岡崎遺跡)



1 流路内の遺物出土状況 (左上)

北から

2 同上遺物出土状況の細部 (左下)

3 土器と木片等の出土状況 (右)



c 主要な出土遺物



1 平安時代後期の土師器皿各種（左）と丹波産軒瓦（右）



2 平安時代後期の曲物



3 弥生時代後期末ごろの土器



4 弥生時代後期の方形に加工された板材・表（左）裏（右）

d 出土木製品の保存処理 – 墨書曲物の真空凍結乾燥法処理を例にして (2018.10~2019.3)

👉 現在は複数の保存処理法が実用化。条件や状況に応じて採用を判断。

👉 内部の水分の薬剤への置換による腐朽防止と強度維持が基本。

写真はすべて (公財) 滋賀県文化財保護協会提供



①処理前の洗浄



②PEG溶液の作成



③PEG含浸・歪み計測



④含浸後の保護紙貼付



⑤保護紙による養生完成



⑥補強後乾燥機搬入



⑦乾燥後保護紙除去



⑧処理終了

墨書「田マ□□」

※「マ」は部の省画で、
田マ（たべ）は氏名（うじな）だろう。



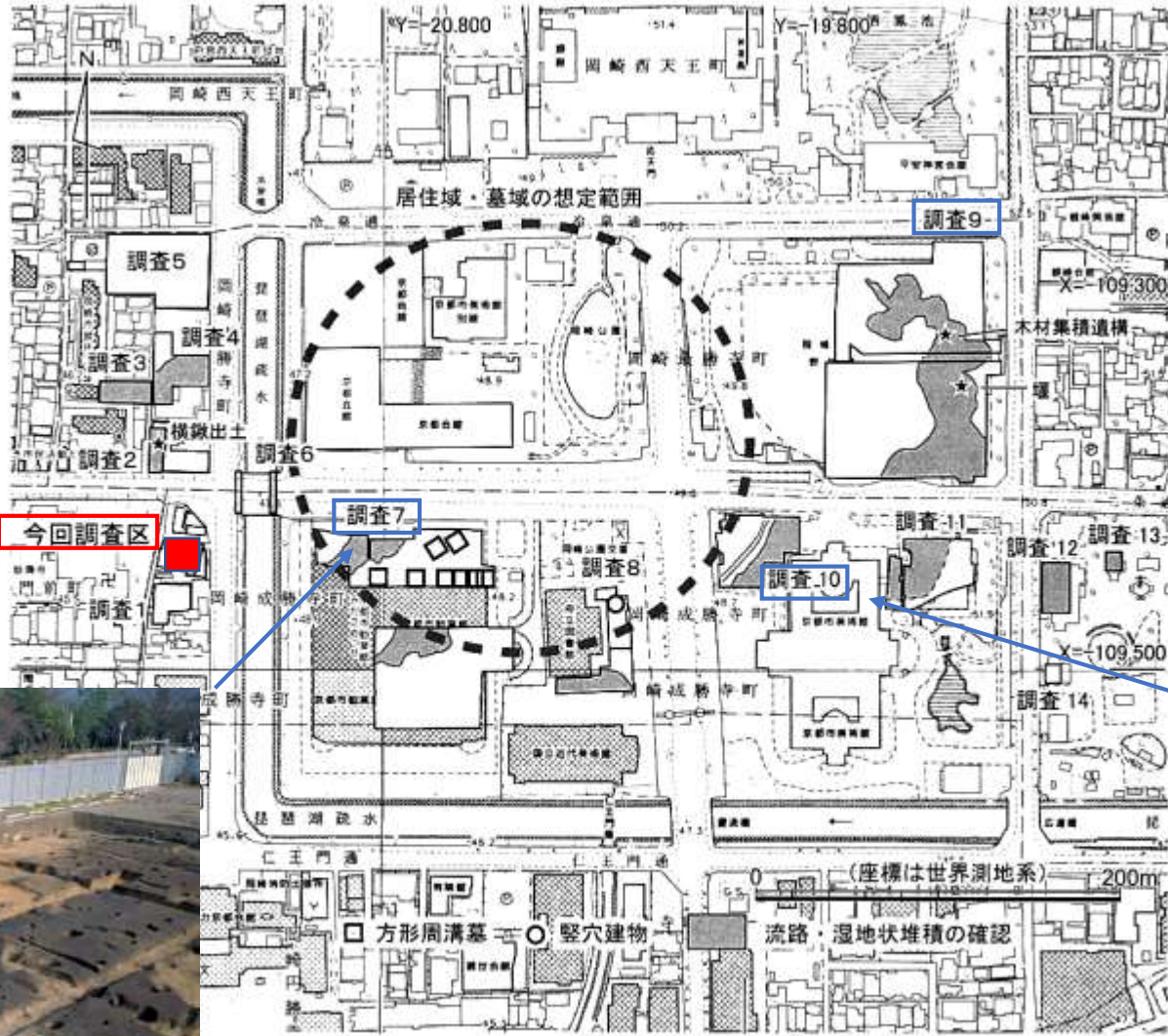
処理後墨書赤外線画像



処理前墨書赤外線画像

3 おわりに 発掘調査成果の意義と課題

— 白河街区・岡崎遺跡の復原／木製遺物出土環境の再認識



木材集積遺構と堰（調査9）



環濠状の弧状溝と湿地（調査10）

※写真はすべて（公財）京都市埋蔵文化財研究所提供



方形周溝墓（調査7）※標高47～47.5m

* 扇状地末端の湧水豊富な立地

* 東側に高まる地形。微起伏の連続。

* 平安後期～鎌倉前期の白河街区・延勝寺跡

👉 寺域とすれば、東辺部に当たるか（西側に中心空間か）

? 二条通が不明。出土遺物による特異傾向はない（尊勝寺に共通）

* 弥生後期～古墳前期の岡崎遺跡

👉 調査地は東側の集落に接する湿地帯

👉 集落近傍の湿地を木器・木製品の貯木や生産にも利用した可能性

👉 「遺存しているものだけで考えることの怖さ」

ご清聴ありがとうございました